

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300380		
法人名	有限会社 きらく		
事業所名	グループホームきらく		
所在地	鳥栖市柚比町137番地2		
自己評価作成日	令和5年11月7日	評価結果市町村受理日	令和6年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1人1人の生活スタイルを尊重し、本人及び、家族の要望へは迅速に対応を行います。出来る事や得意な事を、楽しんで継続できるような環境を作り、職員と共に、日々を大切にします。面会や地域との交流は減少しておりますが、定期的に本人の写真を家族に送るようにしています。コロナの影響もあり、敷地内で何か出来ないかと考えて、テラスを新設し全体でバーベキューをしたり、少しでも外気に触れ、季節を感じて頂くことが出来る場が整いました。精一杯生きてこられた人生の中で、少しの時間ですが、共に笑いあえるような楽しい時間と思い出作りに参加させて頂ければ、精一杯の支援をさせて頂きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近隣には小高い山があり春は桜、秋は紅葉とロケーションは抜群で自然にあふれた雰囲気がある。散歩コースとしても道が平坦で天候の良い日は外気浴に努めている。平屋建ての室内は季節の制作物など飾られ、楽しみの空間作りに取り組んでいる。食事は手作りで、家庭的雰囲気があり、テラスでのバーベキューも行われ、食事を楽しむ工夫が現れている。家族等との面会は、制限なく、家族等との繋がりを大事にされている。地域との関わりでは、半年に1回草刈り作業に参加している。また、回覧板を直接手渡しし挨拶するなど、地域の方との関わりを深めるよう務められている。職員は、幅広い年齢層の方々が在籍している。職員の相談に応じて勤務時間帯の配慮することなど、働きやすい環境作りにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	I	II		I	II
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(I)	自己評価(II)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所、キッチンと常に職員の目に届くところに提示し、確認実行できるように意識をしている。新規職員には入職時に説明を行っている。	事務所、キッチンと常に職員の目に届くところに提示し、確認実行できるように意識をしている。新規職員には入職時に説明を行っている。	理念は、ホーム内の玄関、事務所、キッチンに掲示されている。理念に関して月1回のカンファレンスで理解を深め、実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での草刈り行事への参加。近隣住民とのコミュニケーションや、運営推進会議の活用による地域代表者との密な連絡体制を整えている。	地域での草刈り行事への参加。近隣住民とのコミュニケーションや、運営推進会議の活用による地域代表者との密な連絡体制を整えている。	地域とは顔見知りの関係で、半年に1回草刈り行事に参加している。「こども110番」運動に協力するなど、地域との関係を構築する努力をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	子供110番の継続、高齢者等見守りネットワーク事業への加入にて少しでも地域貢献に繋がればと実行している。	子供110番の継続、高齢者等見守りネットワーク事業への加入にて少しでも地域貢献に繋がればと実行している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事の連絡、他施設で実施している工夫の情報提供、身体拘束適正委員会の実施など、双方の情報交換の場として活用できている。	地域行事の連絡、他施設で実施している工夫の情報提供、身体拘束適正委員会の実施など、双方の情報交換の場として活用できている。	運営推進会議では、対面での会議を行われている。地域行事連絡、情報交換、身体拘束適正化委員会等の場としている。家族の参加に関しては仕事などの理由で、参加がない状況が続いている。	日程や、時間帯の検討など、家族も会議に参加できるような工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	先日運営指導があり、書面や実情の確認をして頂き、不足分に関しては助言を頂き、訂正改善を行った。	先日運営指導があり、書面や実情の確認をして頂き、不足分に関しては助言を頂き、訂正改善を行った。	市とホームとは、友好的関係性が築かれている。今年8月に運営指導を受けて、ケアプランの改善に取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回以上、施設内での身体拘束に関する研修を実施し、職員の気づきで気になる事があれば、カンファレンスを利用して拘束に該当するか、以外の方法が無いかを話し合う。	年に2回以上、施設内での身体拘束に関する研修を実施し、職員の気づきで気になる事があれば、カンファレンスを利用して拘束に該当するか、以外の方法が無いかを話し合う。	年2回身体拘束に関する研修会を実施している。管理者は、市に身体拘束に該当するかどうか都度確認し、適切なケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上、施設内での虐待防止に関する研修を実施し、外部研修から得た新しい情報を職員全体に共有と伝達で、虐待の見過ごしや防止に注意をしている。	年に2回以上、施設内での虐待防止に関する研修を実施し、外部研修から得た新しい情報を職員全体に共有と伝達で、虐待の見過ごしや防止に注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に成年後見制度を利用している方がいるので、成年後見制度の必要性を職員カンファレンスで、定期的に周知し、説明と理解できるようにしている。	利用者に成年後見制度を利用している方がいるので、成年後見制度の必要性を職員カンファレンスで、定期的に周知し、説明と理解できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、時間をかけて、丁寧に説明し、項目ごとに、不明点が無いかの確認をしながら話を進めていく。 解約時には、解約による家族や本人負担を説明し、合意を頂いた上で解約とする。	契約時に、時間をかけて、丁寧に説明し、項目ごとに、不明点が無いかの確認をしながら話を進めていく。 解約時には、解約による家族や本人負担を説明し、合意を頂いた上で解約とする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会は事前予約制とし、面会時に職員が立会い近況報告を行うようにしている。管理者が対応する際は、双方の日程調整を事前に行い、要望や意見の確認、案件を職員へ伝達している。	面会は事前予約制とし、面会時に職員が立会い近況報告を行うようにしている。管理者が対応する際は、双方の日程調整を事前に行い、要望や意見の確認、案件を職員へ伝達している。	管理者もしくは職員が面会時に入居者の近況の状況を報告し、家族から要望や意見を伺うようにしている。要望、意見を受けて日々のケアに反映する努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員のちょっとした気づきでも、相談が出来るように、管理者が職員に話し掛けて、雑談しながら相談できるような環境作りを意識している。	職員のちょっとした気づきでも、相談が出来るように、管理者から職員に話し掛けて、雑談しながら相談できるような環境作りを意識している。	管理者自身が現場に入っていることで、職員の表情を見て話し、その場で解決できることは解決している。管理者は職員に話す機会をつくり、気軽に相談できる環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年齢や経験ではなく、一生懸命である人が昇給する仕組みとなっている。出来る事が増えると給与も増えていく。育児・子育てを優先できるように対応している。	年齢や経験ではなく、一生懸命である人が昇給する仕組みとなっている。出来る事が増えると給与も増えていく。育児・子育てを優先できるように対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初めから出来ないとならずに、とにかくやってみる、挑戦してみることを推進している。やってみて出来ないは仕方ないが、やる前に出来ないはやろうとしないと説明している。ミスや失敗も大切であるので責める事はしない。	初めから出来ないとならずに、とにかくやってみる、挑戦してみることを推進している。やってみて出来ないは仕方ないが、やる前に出来ないはやろうとしないと説明している。ミスや失敗も大切であるので責める事はしない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	仲の良い施設もあるが、以前に比べて同業者と接する機会が減少している。ネットワーク作りは自身の課題である。	仲の良い施設もあるが、以前に比べて同業者と接する機会が減少している。ネットワーク作りは自身の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	希望や不安を都度確認し、出来る事は継続。出来そうな事は挑戦することで本人の不安要素が無いようにコミュニケーションをしっかりと取っている。	希望や不安を都度確認し、出来る事は継続。出来そうな事は挑戦することで本人の不安要素が無いようにコミュニケーションをしっかりと取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安は尽きないので、1つ1つ不安要素を確認し解決できるように、家族が希望する支援を、迅速に取り入れ、都度家族に納得を頂けるようにしている。	家族の不安は尽きないので、1つ1つ不安要素を確認し解決できるように、家族が希望する支援を、迅速に取り入れ、都度家族に納得を頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何を望んでいるか、何が必要かを本人及び家族に確認し、今までの生活歴を活用しながら、本人主体の生活ができるように支援内容を確認する。	何を望んでいるか、何が必要かを本人及び家族に確認し、今までの生活歴を活用しながら、本人主体の生活ができるように支援内容を確認する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の意欲向上ができるように、出来る事や出来そうな事に着目し、お互いが共存して日々を過ごせるように対応している。	生活の意欲向上ができるように、出来る事や出来そうな事に着目し、お互いが共存して日々を過ごせるように対応している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な範囲で面会に来れるように、書面等へのサインや説明、衣替えを依頼して、家族が施設に足を運んでいただくように、定期的に連絡を行っている。	可能な範囲で面会に来れるように、書面等へのサインや説明、衣替えを依頼して、家族が施設に足を運んでいただくように、定期的に連絡を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に規制をしていないので、事前に連絡頂ければ、友人や親戚も面会されて、面会時に近況の報告をしている。	面会に規制をしていないので、事前に連絡頂ければ、友人や親戚も面会されて、面会時に近況の報告をしている。	面会に関しては制限をしていない。家族が希望すれば馴染みの美容室に連れて行ってもらったり、自宅に帰省もされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活スタイルや自立度を考慮して、定期的に席替えをしながら、仲の良い方同士が会話しながら過ごせるように配慮をしている。	利用者の生活スタイルや自立度を考慮して、定期的に席替えをしながら、仲の良い方同士が会話しながら過ごせるように配慮をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や契約終了となっても、家族と連絡が取れるようにしており、自分から近況を確認したり、悩んでる事は無いか、と連絡をする事もある。	退居や契約終了となっても、家族と連絡が取れるようにしており、自分から近況を確認したり、悩んでる事は無いか、と連絡をする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価(I)	自己評価(II)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	やりたい事、得意な事、できる事を継続し、できそうな事は、本人に拒否が無いかな負担になっていないかを確認しながら支援していく。	やりたい事、得意な事、できる事を継続し、できそうな事は、本人に拒否が無いかな負担になっていないかを確認しながら支援していく。	自己表現ができる方へは、話しやすい環境を配慮しながら意向を聞いている。意思の表出が困難な入居者は、顔の表情や声掛けで意向を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時及び、入居前に本人及び関係者からの情報を聞き取り、どのような生活が今後は必要かを本人及び関係者と話し合いながら、生活歴を尊重した支援を行う。	入居時及び、入居前に本人及び関係者からの情報を聞き取り、どのような生活が今後は必要かを本人及び関係者と話し合いながら、生活歴を尊重した支援を行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	退屈する事が無いように、出来る事や、手伝いをして頂き、ADLが低下しないように個別レクなどを実行している。1日のリズムを把握し、その人に合った生活を優先する。	退屈する事が無いように、出来る事や、手伝いをして頂き、ADLが低下しないように個別レクなどを実行している。1日のリズムを把握し、その人に合った生活を優先する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	管理者と職員が、本人と家族の要望や希望を確認し、話し合いの上、出来る事や出来そうな事を取り入れて、家族に報告し、双方が満足して頂けるようにしている。	管理者と職員が、本人と家族の要望や希望を確認し、話し合いの上、出来る事や出来そうな事を取り入れて、家族に報告し、双方が満足して頂けるようにしている。	介護計画に関し、意向は管理者が本人や家族から伺い、職員の意見とともに計画作成者に伝えている。主治医から指示を受けていることは、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	直近の運営指導時に、個別記録の書式を少し変更し、介護計画に反映しやすようにした。慣れると記入しやすく、気づきや様子が共有しやすくなった。	直近の運営指導時に、個別記録の書式を少し変更し、介護計画に反映しやすようにした。慣れると記入しやすく、気づきや様子が共有しやすくなった。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望と家族の要望を照らし合わせて、不可能と決めつけずに、外部サービスも利用しながら、できるかぎり達成できるように個々に対応している。	本人の希望と家族の要望を照らし合わせて、不可能と決めつけずに、外部サービスも利用しながら、できるかぎり達成できるように個々に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣での物品購入など、地域資源の活用をしている。地域の行事等への参加は減少気味である。	近隣での物品購入など、地域資源の活用をしている。地域の行事等への参加は減少気味である。		

自己	外部	項目	自己評価(I)	自己評価(II)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	専属の主治医はいないので、本人及び、家族が納得できる主治医を選択し、主治医とは細かく本人及び、家族の要望を連絡する体制を構築している。	専属の主治医はいないので、本人及び、家族が納得できる主治医を選択し、主治医とは細かく本人及び、家族の要望を連絡する体制を構築している。	主治医の選択は本人や家族の希望としている。現在は、2ヶ所の医療機関の主治医と連携して。各主治医とは、夜間も連絡がつくようにし、適切な医療を受けられる体制を作っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師、准看護師を職員として配置しており、往診時による利用者の変化や要望を主治医に伝達し、本人の不安要素が無いように対応している。	正看護師、准看護師を職員として配置しており、往診時による利用者の変化や要望を主治医に伝達し、本人の不安要素が無いように対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人と家族の不安が少しでも減少するように、付き添う。病院とは適度に情報交換しながら、医療行為の必要性が無いと判断されると退院をお願いしている。	本人と家族の不安が少しでも減少するように、付き添う。病院とは適度に情報交換しながら、医療行為の必要性が無いと判断されると退院をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に書面等で説明を行い、事業所としてできることへの理解をして頂く。 同意を頂ければ、施設での看取りも対応出来るが、状況により、救急搬送をすることにも説明と理解を得ている。	入居時に書面等で説明を行い、事業所としてできることへの理解をして頂く。 同意を頂ければ、施設での看取りも対応出来るが、状況により、救急搬送をすることにも説明と理解を得ている。	入居時に重度化と看取りに関する説明を行っている。台所と玄関の見やすい所に看取り時の連絡網等のマニュアルを掲示し、職員が対処しやすいようにしている。看取り時は主治医から家族に看取りに関する説明がなされている。また、職員向けの看取りの研修も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応を施設内に貼り出し、職員カンファレンスでも定期的に取り上げている。 初期の対応が誰でもできるように、遅れが無いように徹底している。	事故発生時の対応を施設内に貼り出し、職員カンファレンスでも定期的に取り上げている。 初期の対応が誰でもできるように、遅れが無いように徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練と来年度から義務となるBCPの作成に取り掛かっている。避難場所や緊急時の対応を施設内に貼り、急な発生にも対応ができるように地域住民ともコミュニケーションを取っている。	年に2回の消防訓練と来年度から義務となるBCPの作成に取り掛かっている。避難場所や緊急時の対応を施設内に貼り、急な発生にも対応ができるように地域住民ともコミュニケーションを取っている。	災害時の対応方法は、職員が対処しやすいように、事務所と玄関に掲示している。消防署と連携し年2回とも夜間想定での避難訓練を行っている。その際は夜間専任の職員も参加している。避難経路にはスロープも設置されており、車いすの入居者も避難しやすい工夫がされている。	

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重の気持ちを大切にし、不自由な事がある方でも、自分たちでは超えることができない経験をしてきた方々との認識を大切にし、敬意を表す話し方を周知している。	尊重の気持ちを大切にし、不自由な事がある方でも、自分たちでは超えることができない経験をしてきた方々との認識を大切にし、敬意を表す話し方を周知している。	カンファレンスで身体拘束等についての話し合いの場を設けている。日頃から尊重する言葉かけを心掛けている。羞恥心の配慮では、トイレの使用時はきちんと扉が閉まっているか確認するなど、その他日常的な場面で、配慮を怠らないように、注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	強要は一切せずに、本人の選択に基づく日常生活を提供し、できそうな事には少しの支援をすることで、達成に導き、お互いが達成感を得れるようにしている。	強要は一切せずに、本人の選択に基づく日常生活を提供し、できそうな事には少しの支援をすることで、達成に導き、お互いが達成感を得れるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿えるような業務内容を優先し、その時の気分や体調を配慮したスタイルで日々を過ごせるように対応している。	利用者の希望に沿えるような業務内容を優先し、その時の気分や体調を配慮したスタイルで日々を過ごせるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員がおしゃれをすることで、利用者が興味を抱き、ネイルや髪色の変更に対応している。行きつけの美容室があれば、家族の協力のもと、通えるように対応している。	職員がおしゃれをすることで、利用者が興味を抱き、ネイルや髪色の変更に対応している。行きつけの美容室があれば、家族の協力のもと、通えるように対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個室での食事は事情がある方のみとし、食事はみんなで同じ時間に行うようにしている。食事は楽しみの一つとして大切にしている。みんなで食べると食事摂取量も増加が見込まれる上に、好き嫌いも明確になる。	個室での食事は事情がある方のみとし、食事はみんなで同じ時間に行うようにしている。食事は楽しみの一つとして大切にしている。みんなで食べると食事摂取量も増加が見込まれる上に、好き嫌いも明確になる。	食器は陶器使用し、家庭的な雰囲気気を大事にしている。その他、テラスでバーベキュー等の企画され、食事を楽しめるよう、様々取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調等を考慮した上で、必要に応じて声を掛けながら食事摂取、水分補給を促す。1日の摂取量は記録に残し、不足気味であれば、主治医へ報告を行う。	体調等を考慮した上で、必要に応じて声を掛けながら食事摂取、水分補給を促す。1日の摂取量は記録に残し、不足気味であれば、主治医へ報告を行う。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを実施、促し、歯の状態が認知機能にも影響するものとして、必要に応じて介助を行うようにしている。気になる症状があれば、訪問歯科を利用している。	食後の口腔ケアを実施、促し、歯の状態が認知機能にも影響するものとして、必要に応じて介助を行うようにしている。気になる症状があれば、訪問歯科を利用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の頻度を記録に残し、頻回に行かれる方にも声掛け見守りを行う。全員の排泄パターンを把握し、できる事は見守り、できない所を一部支援とする。	排泄の頻度を記録に残し、頻回に行かれる方にも声掛け見守りを行う。全員の排泄パターンを把握し、できる事は見守り、できない所を一部支援とする。	排泄チェック表を利用し、1人ひとりの誘導を定期的または声掛けにて実践している。また、トイレの場所を示す方向表示があり、入居者がスムーズに、自らでトイレに行けるように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬を使用する事もあるが、できる限り自然に排便ができるように、水分、食事、運動をしっかりと行って頂き、本人に合う対応で支援している。	便秘薬を使用する事もあるが、できる限り自然に排便ができるように、水分、食事、運動をしっかりと行って頂き、本人に合う対応で支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日に予定者以外にも声を掛けて、希望される方は入浴できるように支援する。拒否があっても何度か声を掛け、必要に応じて入浴日を変更するなどの対応を取る。	入浴日に予定者以外にも声を掛けて、希望される方は入浴できるように支援する。拒否があっても何度か声を掛け、必要に応じて入浴日を変更するなどの対応を取る。	週4日入浴日を設定している。入浴時に入居者とお話し、楽しい時間になるよう実践に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時間は本人の希望時間とする。各自個室であるので、入眠までの時間を居室でゆっくり過ごされる方も多い。寝具調整や体交など、安眠の妨げにならないようにしている。	臥床時間は本人の希望時間とする。各自個室であるので、入眠までの時間を居室でゆっくり過ごされる方も多い。寝具調整や体交など、安眠の妨げにならないようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師と薬情を照らし合わせて確認し、個々に梱包された定期薬を別室で管理し、服薬前に重複確認を行い、本人への服用を促す。気になる事があれば、都度薬剤師に確認を行う。	薬剤師と薬情を照らし合わせて確認し、個々に梱包された定期薬を別室で管理し、服薬前に重複確認を行い、本人への服用を促す。気になる事があれば、都度薬剤師に確認を行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、出身地、前職、趣味、特技などをレクリエーションや生活支援に活用し、日々を笑顔で過ごせるように支援している。	生活歴、出身地、前職、趣味、特技などをレクリエーションや生活支援に活用し、日々を笑顔で過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価(Ⅰ)	自己評価(Ⅱ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候が良い時は、近隣を散歩したり、外気浴を実施している。家族の協力にて外出や外泊も可能である。	天気や気候が良い時は、近隣を散歩したり、外気浴を実施している。家族の協力にて外出や外泊も可能である。	家族等との外出、外泊に制限はない。気候のいい日は、近隣の神社まで散歩し外気浴に努めている。介護度の高い入居者の方も、テラスまで誘導し、外気浴をされている。外に出る機会を、多く作るように努められている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、家族の同意のもと本人管理して頂いている。金銭トラブルに発展しないように注意持っても少額とし、出費が必要であれば、預り金を優先する。	本人の希望があれば、家族の同意のもと本人管理して頂いている。金銭トラブルに発展しないように注意持っても少額とし、出費が必要であれば、預り金を優先する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時に電話をかけたたり、取り次いだりと可能な範囲で家族等への連絡の補助に対応をしている。施設より家族へ連絡をして、本人とスピーカーで会話出来るような支援もしている。	希望時に電話をかけたたり、取り次いだりと可能な範囲で家族等への連絡の補助に対応をしている。施設より家族へ連絡をして、本人とスピーカーで会話出来るような支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レクで作成した貼絵や塗絵などを掲示し、季節感を感じて頂くようにしている。音や光などが、ストレスとならないように、常時注視している。	レクで作成した貼絵や塗絵などを掲示し、季節感を感じて頂くようにしている。音や光などが、ストレスとならないように、常時注視している。	玄関、ホール、廊下側の壁には管理者、職員のアイデアで季節の物の装飾、制作物、写真があり、入居者や来訪者の心が和むものとなっている。ホール内の光、温度調整にも気遣っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの席や場所は、利用者主体で決めている。皆とコミュニケーションを取れるように、1人でも多く友人が出来るようにと、職員が間に入るようにしている。	ホールでの席や場所は、利用者主体で決めている。皆とコミュニケーションを取れるように、1人でも多く友人が出来るようにと、職員が間に入るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は本人と家族が配置を決めて、居心地の良い部屋を作るようにしている。私物、使い慣れた物、思いのある品など、持ち込み歓迎である。	居室内は本人と家族が配置を決めて、居心地の良い部屋を作るようにしている。私物、使い慣れた物、思いのある品など、持ち込み歓迎である。	家具、ベッドの配置は入居者と家族で決めている。居室への持ち込みは、火器以外は、基本的に自由としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は安全に過ごせるよう、手摺りなどを設置している。廊下も離合が可能で歩行訓練をしている。日々の生活の中で、職員が気づいた危険な箇所があれば、対応策を話し合い改善をしている。	建物内は安全に過ごせるよう、手摺りなどを設置している。廊下も離合が可能で歩行訓練をしている。日々の生活の中で、職員が気づいた危険な箇所があれば、対応策を話し合い改善をしている。		